



Red Hat Satellite 6.14

Satellite Conversions Toolkit を使用したホスト の RHEL への変換

Satellite Conversions Toolkit をデプロイし、CentOS Linux 7 システムをサポート可能な RHEL システムに変換します。

Red Hat Satellite 6.14 Satellite Conversions Toolkit を使用したホストの RHEL への変換

Satellite Conversions Toolkit をデプロイし、CentOS Linux 7 システムをサポート可能な RHEL システムに変換します。

Red Hat Satellite Documentation Team
satellite-doc-list@redhat.com

法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

このガイドでは、パブリッククラウド、プライベートクラウド、またはベアメタルの仮想マシンで Satellite conversions toolkit を準備する方法と、変換ツールキットを使用してシステム上で CentOS Linux 7 を Red Hat Enterprise Linux に変換する方法について説明します。

目次

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)	3
第1章 サポート対象の変換パス	4
第2章 前提条件	5
第3章 サブスクリプションマニフェストの UUID の取得	6
第4章 アクティベーションキーの作成	7
第5章 変換ツールキットを使用した RHEL マシンの準備	8
5.1. AMAZON WEB SERVICES での仮想マシンの準備	8
5.2. GOOGLE CLOUD PLATFORM での仮想マシンの準備	9
5.3. MICROSOFT AZURE での仮想マシンの準備	11
5.4. VMWARE VSPHERE での仮想マシンの準備	13
5.5. QEMU 仮想マシンの準備	14
5.6. ベアメタルマシンの準備	15
第6章 SATELLITE のインストール	17
第7章 変換用の SATELLITE の設定	18
第8章 変換対象ホストの登録	19
第9章 ホストの変換	20
第10章 変換後の次のステップ	22

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

Red Hat ドキュメントに対するご意見をお聞かせください。ドキュメントの改善点があればお知らせください。

Bugzilla でチケットを作成することでフィードバックを送信できます。

1. [Bugzilla](#) のWeb サイトに移動します。
2. **Component** フィールドで、**Documentation** を使用します。
3. **Description** フィールドに、ドキュメントの改善に関するご意見を記入してください。ドキュメントの該当部分へのリンクも追加してください。
4. **Submit Bug** をクリックします。

第1章 サポート対象の変換パス

Satellite conversions toolkit は、以下の変換パスをサポートします。

- x86_64 CPU アーキテクチャー上の CentOS Linux 7 から Red Hat Enterprise Linux 7 へ

第2章 前提条件

変換プロセスを開始する前に、以下の前提条件を満たしていることを確認してください。

- [Red Hat アカウント](#) が作成されている。
- Satellite conversions toolkit 向けの Red Hat クラウドサブスクリプションを購入している。

第3章 サブスクリプションmanifestの UUID の取得

Satellite を設定するためにサブスクリプションmanifestの UUID が必要になるため、その UUID を知っておく必要があります。営業担当者から UUID を受け取った場合は、この手順をスキップできます。

前提条件

- manifestに割り当てられたサブスクリプションを使用してmanifestが作成されていることを確認してください。manifestがすでに存在する場合は、manifestの名前がわかっているので、以下の手順に進むことができます。それ以外の場合は、次の手順に従ってmanifestを作成し、サブスクリプションを割り当てます。
 1. サブスクリプション管理アプリケーションのタイプとして **Satellite 6.14** を使用してサブスクリプション割り当てを作成します。詳細は、[接続されていない Satellite Server のサブスクリプション割り当ての作成](#) を参照してください。
 2. サブスクリプション割り当てにサブスクリプションを追加します。詳細は、[接続されていない Satellite Server のサブスクリプション割り当てへのサブスクリプションの追加](#) を参照してください。



注記

Satellite が実際には Satellite Server に接続されている場合でも、非接続の Satellite Server 用に指定された手順に従う必要があります。このシナリオでは、これが必要なアプローチです。

手順

1. Red Hat Hybrid Cloud Console で、[Services > Subscriptions and Spend > Manifests](#) に移動します。
2. 名前でmanifestを特定し、manifestの **UUID** をメモします。

次のステップ

- [アクティベーションキーを作成します。](#)

第4章 アクティベーションキーの作成

アクティベーションキーを作成し、Satellite conversions toolkit に必要なリポジトリを有効にする必要があります。

手順

1. Red Hat Hybrid Cloud Console で [Services > System Configuration > Activation Keys](#) に移動します。
2. **Create activation key** をクリックします。
3. アクティベーションキーの名前を入力します。
4. **Next** をクリックします。
5. **Select Workload** 画面で、**Latest release** を選択します。
6. **Next** をクリックします。
7. オプション: **Select system purpose** 画面で、ロール、SLA、および使用法を選択します。
8. **Next** をクリックします。
9. 新しいアクティベーションキーの情報を確認し、**Create** をクリックします。
10. **View activation key** をクリックします。
11. **Add repositories** をクリックします。
12. 以下のリポジトリを選択します。
 - Red Hat Satellite 6.14 for RHEL 8 x86_64 (RPM)
 - Red Hat Satellite Maintenance 6.14 for RHEL 8 x86_64 (RPM)
 - Red Hat Satellite Utils 6.14 for RHEL 8 x86_64 (RPM)
13. **Save Changes** をクリックします。

次のステップ

- [変換ツールキットで RHEL マシンの準備を行います。](#)

関連情報

- [Hybrid Cloud Console のアクティベーションキーのスタートガイド](#)

第5章 変換ツールキットを使用した RHEL マシンの準備

以下のいずれかのオプションを使用して、Satellite conversions toolkit をデプロイできます。

- [「Amazon Web Services での仮想マシンの準備」](#)
- [「Google Cloud Platform での仮想マシンの準備」](#)
- [「Microsoft Azure での仮想マシンの準備」](#)
- [「VMware vSphere での仮想マシンの準備」](#)
- [「QEMU 仮想マシンの準備」](#)
- [「ベアメタルマシンの準備」](#)

Red Hat Satellite のハードウェア要件を確認します。詳細は、[オンラインネットワーク環境への Satellite Server のインストールのシステム要件](#)を参照してください。

5.1. AMAZON WEB SERVICES での仮想マシンの準備

変換ツールキットを Amazon Web Services (AWS) 上の仮想マシンにデプロイする場合は、Red Hat Enterprise Linux 8 とツールキットのリポジトリを含むイメージを構築し、そのイメージを Red Hat Hybrid Cloud Console から起動してください。

前提条件

- アクティベーションキーを作成している。詳細は、[4章 アクティベーションキーの作成](#)を参照してください。
- クラウド環境のファイアウォール設定で、次のポートの受信トラフィックと送信トラフィックが許可されている。
 - 67/udp
 - 68/udp
 - 80/tcp
 - 443/tcp
 - 8000/tcp
 - 8140/tcp
 - 8443/tcp
 - 9090/tcp

手順

1. AWS アカウントを Red Hat Hybrid Cloud Console に接続します。詳細は、[AWS アカウントの Red Hat Hybrid Cloud Console への接続](#)を参照してください。
2. 変換ツールキットを使用して RHEL イメージをビルドします。

- a. Red Hat Hybrid Cloud Console で [Services > Inventories > Images](#) に移動します。
 - b. **Create image** をクリックします。
 - c. **Image output** 画面で、**Release** メニューから **Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 8** を選択します。
 - d. **x86_64** アーキテクチャーが選択されていることを確認します。
 - e. **Select target environments** の下で **Amazon Web Services** を選択します。
 - f. **Next** をクリックします。
 - g. **Share method** で、**Use an account configured from Sources** が選択されていることを確認します。
 - h. AWS ソースの名前を選択します。
 - i. **Next** をクリックします。
 - j. **Register** 画面の **Registration method** で、**Automatically register...** が選択されていることを確認します。
 - k. アクティベーションキーを選択します。
 - l. **Next** をクリックします。
 - m. **File system configuration** 画面で、**Use automatic partitioning** が選択されていることを確認します。
 - n. **Next** をクリックします。
 - o. **Additional Red Hat packages** 画面で、**Next** をクリックします。
 - p. **Custom repositories** 画面で、**Next** をクリックします。
 - q. **Details** 画面で、イメージの名前を入力し、必要に応じて説明を入力します。
 - r. **Next** をクリックします。
 - s. イメージの詳細を確認します。
 - t. **Create image** をクリックします。
3. AWS でイメージを起動します。Red Hat は、インスタンスタイプとして **c3.4xlarge** を選択することを推奨します。詳細は、[AWS でのカスタマイズされた RHEL イメージの起動](#) を参照してください。

次のステップ

- [Satellite](#) をインストールします。

5.2. GOOGLE CLOUD PLATFORM での仮想マシンの準備

変換ツールキットを Google Cloud Platform (GCP) 上の仮想マシンにデプロイする場合は、Red Hat Enterprise Linux 8 とツールキットのリポジトリを含むイメージを構築し、そのイメージを Red Hat Hybrid Cloud Console から起動してください。

前提条件

- アクティベーションキーを作成している。詳細は、[4章 アクティベーションキーの作成](#) を参照してください。
- クラウド環境のファイアウォール設定で、次のポートの受信トラフィックと送信トラフィックが許可されている。
 - 67/udp
 - 68/udp
 - 80/tcp
 - 443/tcp
 - 8000/tcp
 - 8140/tcp
 - 8443/tcp
 - 9090/tcp

手順

1. GCP プロジェクトを Red Hat Hybrid Cloud Console に接続します。詳細は、[GCP プロジェクトの Red Hat Hybrid Cloud Console への接続](#) を参照してください。
2. 変換ツールキットを使用して RHEL イメージをビルドします。
 - a. Red Hat Hybrid Cloud Console で [Services > Inventories > Images](#) に移動します。
 - b. **Create image** をクリックします。
 - c. **Image output** 画面で、**Release** メニューから **Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 8** を選択します。
 - d. **x86_64** アーキテクチャーが選択されていることを確認します。
 - e. **Select target environments** セクションで、**Google Cloud Platform** を選択します。
 - f. **Next** をクリックします。
 - g. **Select image sharing** で、**Share image with Google account** が選択されていることを確認します。
 - h. アカウントの種類を選択し、GCP 認証情報を入力します。
 - i. **Next** をクリックします。
 - j. **Register** 画面の **Registration method** で、**Automatically register...** が選択されていることを確認します。
 - k. アクティベーションキーを選択します。
 - l. **Next** をクリックします。

- m. **File system configuration** 画面で、**Use automatic partitioning** が選択されていることを確認します。
 - n. **Next** をクリックします。
 - o. **Additional Red Hat packages** 画面で、**Next** をクリックします。
 - p. **Custom repositories** 画面で、**Next** をクリックします。
 - q. **Details** 画面で、イメージの名前を入力し、必要に応じて説明を入力します。
 - r. **Next** をクリックします。
 - s. イメージの詳細を確認します。
 - t. **Create image** をクリックします。
3. GCP でイメージを起動します。Red Hat では、マシンタイプとして **e2-standard-8** を選択することを推奨します。詳細は、[Google Cloud Platform でのカスタマイズされた RHEL イメージの起動](#) を参照してください。

次のステップ

- [Satellite](#) をインストールします。

5.3. MICROSOFT AZURE での仮想マシンの準備

変換ツールキットを Microsoft Azure 上の仮想マシンにデプロイする場合は、Red Hat Enterprise Linux 8 とツールキットのリポジトリを含むイメージを構築し、そのイメージを Red Hat Hybrid Cloud Console から起動してください。

前提条件

- アクティベーションキーを作成している。詳細は、[4章 アクティベーションキーの作成](#) を参照してください。
- クラウド環境のファイアウォール設定で、次のポートの受信トラフィックと送信トラフィックが許可されている。
 - 67/udp
 - 68/udp
 - 80/tcp
 - 443/tcp
 - 8000/tcp
 - 8140/tcp
 - 8443/tcp
 - 9090/tcp

手順

1. Microsoft Azure アカウントを Red Hat Hybrid Cloud Console に接続します。詳細は、[Microsoft Azure アカウントの Red Hat Hybrid Cloud Console への接続](#) を参照してください。
2. 変換ツールキットを使用して RHEL イメージをビルドします。
 - a. Red Hat Hybrid Cloud Console で [Services > Inventories > Images](#) に移動します。
 - b. **Create image** をクリックします。
 - c. **Image output** 画面で、**Release** メニューから **Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 8** を選択します。
 - d. **x86_64** アーキテクチャーが選択されていることを確認します。
 - e. **Select target environments** の下で、**Microsoft Azure** を選択します。
 - f. **Next** をクリックします。
 - g. **Share method** で、**Use an account configured from Sources** が選択されていることを確認します。
 - h. 名前で Microsoft Azure ソースとリソースグループを選択します。
 - i. **Next** をクリックします。
 - j. **Register** 画面の **Registration method** で、**Automatically register...** が選択されていることを確認します。
 - k. アクティベーションキーを選択します。
 - l. **Next** をクリックします。
 - m. **File system configuration** 画面で、**Manually configure partitions** を選択します。/パーティションに少なくとも 20 GB の領域を割り当てます。
 - n. **Next** をクリックします。
 - o. **Additional Red Hat packages** 画面で、**Next** をクリックします。
 - p. **Custom repositories** 画面で、**Next** をクリックします。
 - q. **Details** 画面で、イメージの名前を入力し、必要に応じて説明を入力します。
 - r. **Next** をクリックします。
 - s. イメージの詳細を確認します。
 - t. **Create image** をクリックします。
 3. Microsoft Azure でイメージを起動します。Red Hat は、インスタンスサイズとして **Standard_D12_v2** を選択することを推奨します。詳細については、[Microsoft Azure でのカスタマイズされた RHEL イメージの起動](#) を参照してください。

次のステップ

- [Satellite](#) をインストールします。

5.4. VMWARE VSPHERE での仮想マシンの準備

変換ツールキットを VMware vSphere 上の仮想マシンにデプロイする場合は、Red Hat Enterprise Linux 8 とツールキットのリポジトリを含むイメージを構築し、そのイメージを起動します。

前提条件

- アクティベーションキーを作成している。詳細は、[4章 アクティベーションキーの作成](#)を参照してください。

手順

1. 変換ツールキットを使用して RHEL イメージをビルドします。
 - a. Red Hat Hybrid Cloud Console で [Services > Inventories > Images](#) に移動します。
 - b. **Create image** をクリックします。
 - c. **Image output** 画面で、**Release** メニューから **Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 8** を選択します。
 - d. **x86_64** アーキテクチャーが選択されていることを確認します。
 - e. **Select target environments** の下で、**VMware vSphere** を選択します。
 - f. イメージに必要な形式を選択します。
 - g. **Next** をクリックします。
 - h. **Register** 画面の **Registration method** で、**Automatically register...** が選択されていることを確認します。
 - i. アクティベーションキーを選択します。
 - j. **Next** をクリックします。
 - k. **File system configuration** 画面で、**Manually configure partitions** を選択します。/パーティションに少なくとも 20 GB の領域を割り当てます。
 - l. **Next** をクリックします。
 - m. **Additional Red Hat packages** 画面で、**Next** をクリックします。
 - n. **Custom repositories** 画面で、**Next** をクリックします。
 - o. **Details** 画面で、イメージの名前を入力し、必要に応じて説明を入力します。
 - p. **Next** をクリックします。
 - q. イメージの詳細を確認します。
 - r. **Create image** をクリックします。
2. Red Hat Hybrid Cloud Console からビルドされたイメージをダウンロードします。
3. VMware の仮想マシンでイメージを起動します。

次のステップ

- [Satellite](#) をインストールします。

5.5. QEMU 仮想マシンの準備

変換ツールキットを QEMU 仮想マシンにデプロイする場合は、Red Hat Enterprise Linux 8 とツールキットのリポジトリを含むイメージを構築し、そのイメージを起動できます。

前提条件

- アクティベーションキーを作成している。詳細は、[4章 アクティベーションキーの作成](#) を参照してください。

手順

1. 変換ツールキットを使用して RHEL イメージをビルドします。
 - a. Red Hat Hybrid Cloud Console で [Services > Inventories > Images](#) に移動します。
 - b. **Create image** をクリックします。
 - c. **Image output** 画面で、**Release** メニューから **Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 8** を選択します。
 - d. **x86_64** アーキテクチャーが選択されていることを確認します。
 - e. **Select target environments** の下で、**Virtualization - Guest image** を選択します。
 - f. **Next** をクリックします。
 - g. **Register** 画面の **Registration method** で、**Automatically register...** が選択されていることを確認します。
 - h. アクティベーションキーを選択します。
 - i. **Next** をクリックします。
 - j. **File system configuration** 画面で、**Use automatic partitioning** が選択されていることを確認します。
 - k. **Next** をクリックします。
 - l. **Additional Red Hat packages** 画面で、**firewalld** パッケージを検索し、選択したパッケージに追加します。
 - m. **Next** をクリックします。
 - n. **Custom repositories** 画面で、**Next** をクリックします。
 - o. **Details** 画面で、イメージの名前を入力し、必要に応じて説明を入力します。
 - p. **Next** をクリックします。
 - q. イメージの詳細を確認します。
 - r. **Create image** をクリックします。

2. Red Hat Hybrid Cloud Console からビルドされたイメージをダウンロードします。
3. 仮想マシンでイメージを起動します。

次のステップ

- [Satellite](#) をインストールします。

5.6. ベアメタルマシンの準備

ベアメタルマシンに変換ツールキットをデプロイする場合は、Red Hat Enterprise Linux 8 とツールキットのリポジトリを含むイメージをビルドし、イメージを起動できます。

前提条件

- アクティベーションキーを作成している。詳細は、[4章 アクティベーションキーの作成](#)を参照してください。

手順

1. 変換ツールキットを使用して RHEL イメージをビルドします。
 - a. Red Hat Hybrid Cloud Console で [Services > Inventories > Images](#) に移動します。
 - b. **Create image** をクリックします。
 - c. **Image output** 画面で、**Release** メニューから **Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 8** を選択します。
 - d. **x86_64** アーキテクチャーが選択されていることを確認します。
 - e. **Select target environments** の下で **Bare metal - Installer** を選択します。
 - f. **Next** をクリックします。
 - g. **Register** 画面の **Registration method** で、**Automatically register...** が選択されていることを確認します。
 - h. アクティベーションキーを選択します。
 - i. **Next** をクリックします。
 - j. **File system configuration** 画面で、**Use automatic partitioning** が選択されていることを確認します。
 - k. **Next** をクリックします。
 - l. **Additional Red Hat packages** 画面で、**Next** をクリックします。
 - m. **Custom repositories** 画面で、**Next** をクリックします。
 - n. **Details** 画面で、イメージの名前を入力し、必要に応じて説明を入力します。
 - o. **Next** をクリックします。
 - p. イメージの詳細を確認します。

- q. **Create image** をクリックします。
2. Red Hat Hybrid Cloud Console からビルドされたイメージをダウンロードします。
3. ベアメタルマシンのイメージを起動します。

次のステップ

- [Satellite](#) をインストールします。

第6章 SATELLITE のインストール

変換ツールキットを実行して、RHEL マシンに Satellite をインストールします。

前提条件

- 変換ツールキットで RHEL マシンを準備している。詳細は、[5章 変換ツールキットを使用した RHEL マシンの準備](#) を参照してください。

手順

1. SSH を使用してマシンにログインします。
2. root ユーザーに切り替えます。
3. root にパスワードがない場合は、パスワードを設定します。

```
# passwd
```

4. Satellite conversions toolkit をインストールします。

```
# dnf install satellite-convert2rhel-toolkit
```

5. 以下のコマンドを実行して Satellite をインストールします。

```
# satellite-convert2rhel-toolkit install
```

インストールが成功すると、スクリプトは **Satellite has been successfully installed.** のメッセージを出力します。

6. `/etc/hosts` など、Satellite ホスト名に DNS レコードを設定します。Satellite は、**satellite.internal** ホスト名とともにインストールされます。

次のステップ

- [Satellite を設定します。](#)

第7章 変換用の SATELLITE の設定

変換ツールキットを実行して、変換用に Satellite を設定します。

前提条件

- サブスクリプションマニフェストの UUID を取得している。詳細は、[3章 サブスクリプションマニフェストの UUID の取得](#) を参照してください。
- Satellite が正常にインストールされている。詳細は、[6章 Satellite のインストール](#) を参照してください。

手順

1. SSH を使用して Satellite マシンにログインします。
2. root ユーザーに切り替えます。
3. 次のコマンドを実行して Satellite を設定します。

```
# satellite-convert2rhel-toolkit configure \  
--manifest_uuid Your_Manifest_UUID \  
--username 'Your_Red_Hat_Account_Username' \  
--password 'Your_Red_Hat_Account_Password'
```

設定が成功すると、スクリプトは **Satellite has been successfully configured.** のメッセージを出力します。

4. Satellite Web UI にログインします。
 - a. Web ブラウザーに、**https://satellite.internal** などの Satellite インスタンスの FQDN を入力します。
 - b. デフォルトの認証情報(**admin/admin**)を入力します。

注記

Satellite の設定が完了した場合でも、Red Hat CDN から Satellite へのリポジトリの同期はバックグラウンドで実行されているため、完了するまでに時間がかかります。Satellite Web UI で同期のステータスを確認できます。

1. **Monitor > Satellite Tasks > Tasks.** に移動します。
2. **Running** カードをクリックします。リポジトリの同期 タスクが表示される場合、同期はまだ実行中です。
3. オプション: **Refresh Data** をクリックして、タスクのステータスを更新します。

次のステップ

- [変換用にホストを登録](#) します。

第8章 変換対象ホストの登録

ホストを Red Hat Enterprise Linux に変換する前に Satellite に登録する必要があります。Satellite が登録コマンドを生成し、各ホストで実行する登録コマンドを生成している。

Ansible または Puppet などの設定管理ツールを使用して、多数のホストを登録することで、登録コマンドを一括で実行できます。

前提条件

- 変換用に Satellite を設定している。詳細は、[7章 変換用の Satellite の設定](#) を参照してください。
- 時間同期ツールがホストにインストールされ、有効になっている。Satellite とすべてのホストは同じ NTP サーバーと同期されている必要があります。
- Satellite の SSL CA ファイルがホストに配布されている。**Administer > Settings > Authentication** に移動し、SSL CA file 設定を特定すると、**SSL CA ファイル** の場所を特定できます。

手順

1. オプション: Red Hat Insights へのレポートを有効にします。変換ツールキットは、グローバルパラメーター **host_registration_insights** を **false** に設定することで、新しいホストが Insights にレポートできないようにします。詳細は、[ホストの管理の登録用のグローバルパラメーター](#) を参照してください。
2. Satellite Web UI で、**Hosts > Register Host** に移動します。
3. **Host group** フィールドで、**CentOS 7 converting** ホストグループを選択します。
4. **Activation Keys** フィールドに **convert2rhel_centos7** アクティベーションキーが存在することを確認します。
5. **Generate** をクリックします。
6. 生成された登録コマンドをコピーします。
7. SSH を使用してホストにログインし、**root** で登録コマンドを実行します。

検証

- Satellite Web UI で、**Hosts > All Hosts** に移動します。Satellite に登録したホストがすべて見つかります。

次のステップ

- [ホストを変換します。](#)

関連情報

- [ホストの管理のグローバル登録を使用したホストの登録](#)

第9章 ホストの変換

Satellite でリモート実行機能を使用して、ホストを変換できます。

前提条件

- Satellite を設定している。詳細は、[7章 変換用の Satellite の設定](#) を参照してください。
- ホストを Satellite に登録している。詳細は、[8章 変換対象ホストの登録](#) を参照してください。

手順

1. ホスト上で変換前分析を実行します。
 - a. Satellite Web UI で、**Monitor > Jobs** に移動します。
 - b. **ジョブの実行** をクリックします。
 - c. **Job category** で、**Convert 2 RHEL** を選択します。
 - d. **Job template** で **Convert2RHEL analyze** を選択します。
 - e. **Next** をクリックします。
 - f. ターゲットホストフィルターで **Host groups** を選択し、**CentOS 7 converting** ホストグループを選択します。
 - g. **Run on selected hosts** をクリックします。
 - h. Satellite はジョブ呼び出しページを表示します。
 - i. ホスト名をクリックして、ジョブ呼び出しの出力を確認します。詳細は、[RPM ベースの Linux ディストリビューションから RHEL への変換](#) の [変換前分析レポートの確認](#) を参照してください。
 - j. 変換を妨げているすべての問題を解決します。Satellite でリモート実行を使用して、設定の問題を解決できます。詳細は、[ホストの管理](#) の [リモートジョブの実行](#) を参照してください。

問題がすべて解決するまで、この手順を繰り返します。

2. ホストで変換を実行します。
 - a. Satellite Web UI で、**Monitor > Jobs** に移動します。
 - b. **ジョブの実行** をクリックします。
 - c. **Job category** で、**Convert 2 RHEL** を選択します。
 - d. **Job template** で、**Convert to RHEL** を選択します。
 - e. **Next** をクリックします。
 - f. ターゲットホストフィルターで **Host groups** を選択し、**CentOS 7 converting** ホストグループを選択します。
 - g. **Restart** フィールドで、**yes** を選択します。

-
- h. **Activation Key** フィールドで、**convert2rhel_rhel7** アクティベーションキーを選択します。
 - i. **Run on selected hosts** をクリックします。

検証

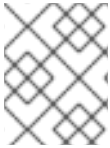
1. Satellite Web UI で、**Hosts > All Hosts** に移動します。
2. **OS** 列の値を確認します。変換されたホストは、**RHEL 7.x** の値で表示されます。

第10章 変換後の次のステップ

ホストを更新する場合は、Red Hat CDN からのコンテンツを使用するようにホストを設定してください。これには、ホストで以下のコマンドを実行します。

```
# subscription-manager --unregister && \  
subscription-manager register \  
--activationkey Your_Activation_Key \  
--org Your_Red_Hat_Organization_ID
```

このコマンドは、Satellite のリモート実行機能を使用して、登録されているすべてのホストで実行できます。詳細は、[ホストの管理のリモートジョブの実行](#)を参照してください。



注記

Satellite を使用してホストの管理を継続する場合は、Red Hat 営業担当者にお問い合わせください。